

2025 年度 卒業論文

アイヌ語の復興に向けた提案

2025 年 5 月 2 日

日本語学科

学生番号：3787827

キャメロン・ホーラボー

エリザベスタウン大学 現代言語学部

要旨

Japan is and has always been an ethnically homogenous nation, one language, one race, one culture. This was the statement made 80s by Prime Minister Yasuhiro Nakasone, the statement that has been echoed through modern history.

This statement has never been true. From the Ryukyu of Okinawa to the Matagi of Akita to the vibrant immigrant culture in Osaka, Japan has never been and will never be a monolith. That is not to say there have been no historical attempts to make this falsehood fact.

The Ainu, a group indigenous to Hokkaido and the far eastern Russian islands, have inhabited Japan for millennia and struggled for almost as long. Through cultural suppression, forced assimilation, and systemic oppression, the Ainu and their language have become all but extinct. Despite this, the last Ainu has yet to die, and the last word of Ainu has yet to be spoken.

This paper starts by examining the current laws put in place to protect the Ainu language and the current efforts to revitalize. It will then evaluate methods used in Canada and The United Kingdom to revitalize or revive their respective indigenous languages and how these methods could be applied to the Ainu revitalization efforts. It will then utilize various current and proposed methods and point out their merits and flaws. It will then find the minimum viable solution for the language to become sustainable, focusing on children, college students, and economic factors, leading to a proposal for the strategies allowing for the implementation of the minimum viable sustainable solution.

目次

1. はじめに.....	5
2. アイヌ語について	6
2.1. アイヌ語の歴史	6
2.2. アイヌ語の現状.....	8
3. 日本全国における運動	9
3.1. 法律	10
3.2. 再活性化運動.....	11
3.2.1. メディア	11
4. 北海道における運動	12
4.1. 法律	13
4.2. 再活性化運動.....	14
4.2.1. 民間	14
4.2.2. 北海道大学.....	15
5. 外国における運動	16
5.1. カナダ.....	17
5.2. イギリスのマン島.....	18
5.3. ニューージーランド	19
6. テクノロジー.....	20
6.1. ラジオ.....	20
6.2. アプリ	21
6.3. AI.....	21
7. 将来の解決法	22
7.1. 子供向けの提案	22
7.2. 大人向けの提案	23

7.3. 資金に対する提案.....	24
8. 結論.....	25
参考文献.....	27

1. はじめに

アイヌ語は、琉球諸語や八丈方言などの他の先住民のように複雑な歴史がある。アイヌ人の歴史は長いですが、日本人との関係は日本の歴史に比べると短いにもかかわらず、日本はアイヌ文化の多くを破壊してきた。しかし、様々な運動や人々の関心のような要因によって、最近の状況は良い方向に改善している。

したがって、北海道政府、日本連邦政府や様々な大学や運動や文化財団などが、現在、アイヌ語を守ろうとしている（公益財団法人 アイヌ民族文化財団, 2025）。しかし、資金が少なく、多くの社会的な問題のため現在でも運動は十分ではない。全ての言語を守ることが大事であるため、アイヌ語も現在のテクノロジーや教育、法律や運動などのメリットとデメリット通じてアイヌ語の再活性化運動をさらに進める必要がある。

資金の点から考えると、現在の教育に使われている資金の弱点を考えれば解決策が見えてくるだろう。そのために、言語アプリやラジオや AI などによる解決策を考えれば具体的にいかにアイヌ語を活性化するための資金が必要かという質問に答えられる。そして、解決法は現在には存在しないが、社会的問題という点を考えると、法律、日本国民の意見、ポップカルチャーを見れば少なくとも改善は始められる。

そこで、この論文では、まず日本全国の法律や運動などを説明して、北海道の法律と活性化運動を説明した後、外国で発展した先住民言語の再活性化方法と日本での方法を比べ、アイヌ語の再活性化法を説明して、最善の具体的な方法を考える。様々な方法を使うことが望ましいが、言語の巢や高等教育などにおける教授法とメディアは最もよい解決法だと主張する。

2. アイヌ語について

アイヌ語の現状は複雑だが、200 年前に多くのアイヌ人はアイヌモシリという国に住んでいた。この時代にアイヌ語話者は安定した数だったにもかかわらず、差別や強制同化によって全てがこの短い期間に変化し、アイヌ語はほとんど消滅した（公益財団法人 アイヌ民族文化財団, 2025）。そのため、再活性化方法の提案する前に、アイヌ語の歴史を理解する必要がある。

2.1. アイヌ語の歴史

縄文時代にアイヌ人の祖先が陶芸や貿易などを始め、少しずつこの祖先は漁業経済を展開して、様々な狩猟方法を開発した。この経済と北海道とロシア極東諸島の地理や動植物などによって、1200 年代ごろに現在理解されているアイヌ文化が確立した（瀬川, 2016）。

その後、アイヌ人は個性的な宗教と言語を確立して、ロシアや中国などと貿易し始めていい関係を築いた（瀬川, 2016）。だが、この時代に松前藩は北海道を植民地化し始めて、和人とアイヌ人が

戦い始めた。時々平和的に貿易ができたが、緊張が徐々に高まるにつれ、戦いも激化した。それから、1600年代にシャクシャインの戦いという反乱の失敗によって、日本の北海道に対する影響力が高まった（新藤, 2016）。

この支配が続いていた間、日本政府は大きく変わった。松前藩は大名だったので、江戸時代に多くの影響を与えたが、植民地化から200年後に明治時代始まったことによって松前藩の政治力が衰えた。後に、明治政府は北海道を併合して、全てのアイヌと和人の条約が廃止されて、アイヌに対する差別が増えた。そのため、アイヌ語やアイヌ宗教がさらに抑制され、和人はアイヌ人を強姦し、強制労働させ、強制移住させた。ロシア政府もアイヌ人に北海道に強制移住のような残虐行為を犯したので、ロシアにおける樺太アイヌ人数は激減した。

この後、明治政府と後の政府はアイヌ人に日本語を使用させ、アイヌ語を禁止した。アイヌ人は個人的にアイヌ語を使用して宗教信仰し続けたが、学校や政府などにはアイヌ語を使用できなかった。明治時代にアイヌを守るための法律を制定して、アイヌ活動家運動が増えたにもかかわらず、この凶悪犯罪が続いた（田端 et al., 2010）。

後の第二次世界大戦の昭和時代にアイヌ活動家が減ったが、戦争の後に日本の民主化によって少しずつ増えた。だが、アイヌ語の状況は緊急の支援を必要とするようになった（関口明, 2015）。

樺太アイヌ語、千島アイヌ語が絶滅して、北海道に住む人は北海道アイヌ語が決して学校で学習できないため、北海道アイヌ語も簡単に絶滅してしまう可能性がある（Mosley & Nicholas, 2010）。

アイヌ語には多くの植民地化の前の口承伝承があり、宗教の祝いにおいては多くのアイヌ語を使用するため、絶滅すればこの知識が失われてしまう。北海道の精神は日本の精神であるばかりでなくアイヌの精神でもあり、アイヌ人は長く北海道に住んでいて、まだ北海道の文化にはアイヌ人の影響が残っているため、アイヌ語が消滅すれば、北海道の歴史も失われることになり、歴史を失えば、歴史ばかりでなく、北海道の精神も失われてしまう。

2.2. アイヌ語の現状

アイヌ語は孤立した言語であるため、学習するのが難しいばかりでなく、他の言語と比較することができないので再活性化運動が少し遅れている（Mosley & Nicholas, 2010）。昔は樺太アイヌ語という言語が存在したが、1990 時代に最後の樺太アイヌ語を理解できる人がいなくなったため、現在、樺太アイヌ語を復活させることはできないと言われている（Mosley & Nicholas, 2010）。そのため、現在、北海道アイヌ語の話者がアイヌ語の最後の希望だ。

しかし、アイヌ語が学習しにくい上に、話者が全て亡くなってしまって運動が改善しなかったら、アイヌ語を習うことは不可能になってしまう可能性がある（Mosley & Nicholas, 2010）。また、現在の再

活性化運動では新しい法律が制定されて、北海道でバスやラジオなどでアイヌ語が使用されて新しい先住民言語の再活性化方法が発展しているので、50 年前の運動に比べると改善しているが、アイヌ語が母語レベルで話せる人が 10 人しかいないため、安定したレベルにはなっていない（公益財団法人 アイヌ民族文化財団, 2025）。そこで、これまでに行われてきた日本の政府の運動を見れば、デメリットを見つけれられて、より多くの効果的な解決法が見つけられるはずだ。

3. 日本全国における運動

日本の連邦政府は様々なアイヌ語に対する法律を制定したが、そのような法律によって日本国民とアイヌ人の先住民の言語と文化を守る運動を通して、現在、日本全国にアイヌ語に対する興味が少しずつ増えている（公益財団法人 アイヌ民族文化財団, 2025）。しかし、それにもかかわらず、多くのアイヌ人はそのような法律があってもヘイトスピーチは止められず、盗まれた遺骨は返還されず、アイヌ人の人権も守られていないため、多くのアイヌ人はそのような法律に対して「私たちを観光資源としか見てない...」という意見を持っていると指摘されている（木原, 2024）。しかし、その法律にはいい点もあり、初めの第一歩として法律のいい点を改善して、悪い点をなくすことによってさらにいい法律に改正できるはずだ。

3.1. 法律

まず、明治政府は北海道旧土人保護法公布というアイヌ人を保護する法律を制定したが、現実には、アイヌの狩猟を抑制し、アイヌの土地を奪うものだった。そして、この法律によってアイヌ人の言語が禁止されて、北海道の学校はアイヌ人に日本語を使用させた（帝国議会, 1899）。この法律が98年後に廃止されたが、アイヌ文化は脆弱になってしまった。

そのため、国連総会で北海道アイヌ協会理事長である野村氏がアイヌ人の現状を広めるために演説した（野村, 1992）ことによって、さらに注目を集め、日本政府はアイヌ語の現状に注目し始めたので、1997年に「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律」というアイヌ人の文化を守る法律を制定した。この法律によって、首相や政治家はアイヌ文化を促進し、アイヌ文化に感謝したが、県庁も同じようにする必要があったため、公益財団法人 アイヌ民族文化財団が設立された(日本の内閣, 1997)。

しかし、差別はまだ頻繁だったため、2019年に「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」というさらなるアイヌ文化振興とアイヌ先住民の現状を改善して始める法律を制定して、古い法律が廃止された（日本の内閣, 2019）。だが、言語の再活性化と正式書類や学校などで使用できることは守られなかった。実は、第二条の中で「『アイヌ文化』とはアイヌ

語」と述べている以外に、その法律は全くアイヌ語の再活性化や情報の拡散という点に関するものとは言えない。また、1997 の法律によって、現在でも公益財団法人 アイヌ民族文化財団が情報を広げているため、連邦政府以外の再活性化運動が少しずつ始まってきた。

3.2. 再活性化運動

現在、日本全国においてはアイヌ語の再活性化運動が少しずつ増えていて、北海道だけでなく本州でもアイヌ語の再活性化運動に参加している人々が増えている。再活性化運動というと、学者とアイヌ人しか参加していない印象があるかもしれないが、日本においてはポップカルチャーが学者や法律に比べてさらに大きい影響を与える傾向があるため、学者だけでなく、漫画家、アニメ監督が大きな影響を与えていることが一般的であるため、アイヌ語に関するアニメがあれば活性化運動がさらに効率的になるだろう。

3.2.1. メディア

最近、日本国内においても国際的にもアイヌ語に対する関心が高まっている（中川, 2024）。人気のアニメや漫画などがアイヌ語と文化を使えば日本人ばかりでなく、外国人もアイヌ語を学習し始める可能性が高まるに相違ない。日本政府は法律が制定されたが、最初にアイヌに関するメディアが増えなかった（公益財団法人 アイヌ民族文化財団, 2025）。

だが、2014 年に「ゴールデンカムイ」という漫画が出版された後、アイヌ文化はポップカルチャー界に広まった。ゴールデンカムイはとても有名な漫画とアニメフランチャイズになって、漫画家は多くのアイヌ語の専門家に相談したため、アイヌ語に対して視聴者の関心が高まったばかりでなく、本物のアイヌ語が教えられる機会にもなった。そのため、アニメが最適な解決策ではないが、アイヌ語を学習したい人がこのような番組によってさらに簡単に学習を始められるので、より多くの番組がアイヌ語を取り扱うとアイヌ語の言葉を覚えることがさらに簡単で取っつきやすくなる（中川, 2024）。

アイヌへの関心の高まりによって他のアイヌに関するメディア作品が増えている。2025 年にはゴースト・オブ・ヨウテイというゲームが発売されるが、このゲームは世界初のアイヌモシリに関する AAA ゲームなので、多く的人是はアイヌ文化に関して学べるようになるはずだ。さらに、ゴースト・オブ・ツシマという対馬に関する認知度が高まったゲームの続編であるため、このゲームによってアイヌ文化に関心が高まるだろう（サッカーパンチプロダクションズ, 2025）。

4. 北海道における運動

日本全国に多少のアイヌ語の再活性化運動が存在することは明らかだが、その上で北海道にはより多くの大規模な運動が見られる。もちろん、北海道には他の地域よりも多くのアイヌ人がいるところなので、学習しやすい印象があるが、現在ではアイヌ人の中でもアイヌ語話者が少なくなっているという

問題もあり、通常は、アイヌ人でもアイヌ語が理解できないことがほとんどなので、北海道の政府や大学などはアイヌ語の話者を集めて様々な対策を始めた。そのため、最近ではアイヌ語の教科書ばかりでなく、ラジオ番組が放送されたり、子供向けのゲームやクラスなども作られたりしているので、アイヌ語は普段使う言語としては十分ではないにもかかわらず、全国に比べて、北海道運動はさらに一般で様々なところで日常的に見つけられるため、北海道の再活性化運動が今度に十分になるはずだ。

4.1. 法律

日本の都道府県は条例を制定できるにもかかわらず、北海道政府はあまり条例を制定しなかったため、あまり学校で子供はアイヌ語を学習せず使用もしない（公益財団法人 アイヌ民族文化財団, 2025）。法律に関して最も権力を持っているのは日本連邦政府だが、この現状は北海道の問題であるため北海道政府が再活性化運動により多くの資金と資源を使用する必要がある。例えば、子供がさらに簡単に母語レベルで言語を学習できるように、北海道政府が教育に対する法律が制定する必要がある。そのようにしなければ、アイヌ語の母語話者は決して増えないだろう（Ramirez, 2021）。

4.2. 再活性化運動

連邦政府以外に、北海道大学や公益財団法人 アイヌ民族文化財団によって、北海道では世界で最も大規模な再活性化運動が行われている。北海道政府の運動が十分ではないため、民間の運動も完璧ではないが、その運動には多くのいい点がある。もちろん、悪い点もあるが、北海道でさらに大規模にアイヌ語が教えられていて、北海道大学がアイヌ語の最も簡単な教え方を研究しているので、その研究を見ればさらに効果的な方法を見つけられるだろう。そのため、北海道にとっていい解決策を見つけれれば、その運動を通して北海道の外でもアイヌ語を教えられるようになり、日本全国での運動につながるだろう。

4.2.1. 民間

一般的に子供はアイヌ語を学ぶ機会はないため、子供は全くアイヌ語を学習しない。また、学校では先生はアイヌ語が分からないので、子供に教えられない。しかし、公益財団法人 アイヌ民族文化財団のボランティアが、正式にアイヌ語の先生になるために教えているので、今後はさらに多くの先生や親が子供にアイヌ語の知識を教えてあげられるようになるだろう。

また、子供たちに限らず、大人もアイヌ語を学習できる（Ramirez, 2021）。現在、公益財団法人 アイヌ民族文化財団が様々な大人向けの授業を始めて、ラジオでアイヌ語を学ぶためのアイヌ語の

単語テキストをインターネットで出版した（公益財団法人 アイヌ民族文化財団, 2024）。それ以外にも、民間による運動があるが、その運動は北海道大学がし始めた運動だ。

4.2.2. 北海道大学

北海道大学はアイヌ語を守るために様々なことを行っている。例えば、構内バスでは日本語でもアイヌ語でも車内アナウンスをするので、北海道大学の学生は日常的にアイヌ語を耳にする。構内の地図でもアイヌ語も使用されているので、大学キャンパスに入るとすぐにアイヌ語が目に入る（北海道大学, 2024）。

これによって、北海道大学生はアイヌ語に日常的に触れるので、北海道大学の運動が少しずつ効果的になる。十分とは言えないが、北海道大学がこの十年間に多くのアイヌ語を日常に使用できるように学習できる方法が研究されている。そのため、この方法を一般のアイヌ語教育で使用すれば、さらに効率的で効果的な解決法が発展できる。

さらに、連邦政府はアイヌに対する法律を起草するために北海道大学に助言を求めているので、北海道大学の研究はこの法律に対して大きな影響を与えており、バスや地図などの解決法に効果があれば、政府はこの解決法をさらに真剣に受け止めるだろう（内閣, 2012）。この現状によって、政府の運動ばかりでなく、大学にも資金が提供されれば法律が改善するはずだ。

5. 外国における運動

上記の消滅対策はほとんどが失敗だったと言える。運動が行われたにもかかわらず明らかに十分ではなかった。失敗したと言っても、アイヌ語が消滅しなかったことを考えると、再活性化運動が無駄だったわけではないし、言語を守る運動は無駄ではない。

しかし、日本政府と北海道が使用した方法が唯一の方法というわけでもない。言語は常に変化しているので、言語学や言語教授法を通して常に新しい方法が発展している。様々な新しいテクノロジーや先住民言語の教え方は日本ばかりでなく、オセアニアでも欧米でも発展しているため、アイヌ語の活性化にはまた希望がある。カナダやニュージーランドなどにはさらに多くの先住民がいるので、日本の努力に効果があれば、他の国はさらに研究が進められるはずだ。逆に、日本で行われている方法が十分ではなければ、外国の方法を活用すれば効果が得られるはずだ。アイヌの問題は日本の問題だが、外国には様々な先住民がいるため、同じではなくても日本でのもの以外の解決法も多い。そして、テクノロジーは他の言語でも使用できるので、アイヌ語に対する解決法ではなくても多くのメリットがある。そして、様々な国の先住民言語の再活性化運動や教え方を見れば日本の運動を十分にできるはずだ。

5.1. カナダ

カナダは特にいい先住民教育と先住民関係がある。実は、ヌナブト準州というカナダの国土の 21% を占める準州は先住民政府がある（Dahl, J et al, 2000）。そのため、カナダの先住民は外国に比べて多いので、先住民言語教育は多く、質も高い。連邦政府は再活性化運動に資金を提供し、北海道のように様々なラジオやテレビなどの番組やビデオなどを放送するが、このような政府の運動によって、人々は無料で先住民言語を学習できる（Government of Canada, 2025）。

また、日本に比べて先住民教育はかなり一般的であるため、先住民言語法によって、様々な先住民言語教育は K-12 の学校で教えられている（Government of Canada, 2025）。そして、240,000 人のカナダ人は会話レベルで先住民言語が話せるため、子供は家族と友達の家族によって簡単に先住民言語が学習できる（Statistics Canada, 2023）。

それ以外に、UVIC という大学では様々な先住民語の授業が提供され、先住民言語再活性化学士と修士も提供されている。約 10 の言語の再活性化運動が支持され、様々な先住民言語の教師を養成している（University of Victoria, 2025）。このような大学レベルのクラスによってカナダの再活性化運動がさらに成功しているので、カナダで行われている方法のメリットが分かれば日本の状況も改善できるはずだ。

日本がカナダの運動を取り入れるなら、すぐに大学レベルでアイヌ語の授業やテレビ番組を提供する必要がある。公益財団法人アイヌ民族文化財団はアイヌ語の授業を提供しているが、日本の大学においても副専攻、学士、選択科目を提供すれば、大学の単位のためであっても関心が増えるはずだ。そして、ゴールデンカムイのような作品は関心を高めることに効果があるので（中川, 2024）、カナダのようにさらに多くの番組を制作すればアイヌ語に対する関心がさらに高まるはずだ。

5.2. イギリスのマン島

アイヌ語絶滅はしていないが、話者が少ないので、絶滅から復活した言語の再活性化運動も、アイヌ語の再活性化運動の改善策に取り入れられるはずだ。そこで、イギリスにおけるマン島語について述べる。

1974 年に最後のマン島語母語話者が亡くなったため、マン島語は絶滅した。イギリス政府はマン島語話者のリストがあったので、絶滅したことを確認した（Broderick, 2017）が、その後マン島政府は学校でマン島語を教え、文法や単語などを維持し、地元の運動を支援している（Isle of Man, 2022）。この早期教育によって、現在マン島語話者は 2,000 以上いるばかりでなく、母語話者も 20 人以上いる（Isle of Man, 2021）。

そして、子供は簡単に母語レベルで言語を学習できるため（Ramirez, 2021）、早期教育は重要だ。この解決法とカナダの大学における授業やコミュニティなどの解決法を取り入れれば、もしもアイヌ語母語話者が全て亡くなったとしても復活できるはずだ。

5.3. ニュージーランド

一般的に、子供は母語レベルで言語を習得できるため、言語学研究者はよく子供向けに行われる教授法を研究する（Ramirez, 2021）。例えば、ニュージーランドには多くの先住民族がいるので、この国では 80 時代に言語の巣というイマージョンプログラムのような方法が発展した（野崎, 2016）。

言語の巣というのは先住民言語の母語話者が学習者である子供とその言語を使用することだが、言語は孤立したものではないため、子供はグループで話すことを通して、様々な文化を学習する。この方法はニュージーランドとフィンランドで肯定的な結果が報告されているが（野崎, 2016）、アイヌ語に適用するには母語話者が少ないという問題がある。言語の巣は話者が少なくとも役に立つが、現在はアイヌ語の話者は 20 人以下しかいない（Mosley & Nicholas, 2010)ので、実現は困難だ。そして、アイヌ語で言語の巣を始める前に、子供を教えるのが大事だが、言語の巣を始めるのに必要なアイヌ語話者が少ないため、大人向けの解決法を使用すべきだ。

6. テクノロジー

現代社会において、テクノロジーは世界に最も大きな影響を与えている。全ての国では皆がインターネットで言語を学べるため、ラジオ以外でアイヌ語のレッスンを受けることができれば、アイヌ語がさらに流暢になる可能性が高まる。上に書いたようにラジオのデメリットは会話ができないことなので、インターネットでどこでも様々な人とテキストやボイスチャットで話せるため、この問題を解決できるはずだ。

だが、現在テクノロジーが変化している。以前は、言語のアプリやサイトなどでしか言語が学習できなかった。その状況はまだ同じようであるにもかかわらず、現在では AI が言語を学ぶために使用され始めている。そして、AI と伝統的なテクノロジーの学習方法を比べると、どちらがより効果的な方法かがわかる。

6.1. ラジオ

STV という札幌テレビ放送が現在アイヌ語のラジオ番組が放送しているので、世界で人々が無料でアイヌ語の授業を聞くことができる。そして、このサイトで様々なテキストを出版されていて、録音もサイトでアップロードされているため、いつでもどこでもアイヌ語を学習できる（STV, 2024）。

しかし、言語の巢は母語話者と話せるにため、効果的な解決法だ。このラジオ番組は聞くことと語彙を学ぶことにとっては効果的だが、アイヌ語話者と話すことができないので、流暢に話せるようになる

ことは困難だ。実際には、話者と会話ができなければ、流暢になるのは不可能であるはずだが、ラジオでアイヌ語の単語と文法を無料で学習できるので、他の解決法に合わせて使用すればこのラジオ番組は効果的だ。

6.2. アプリ

言語アプリは新しい分野なので、研究が少ないが、田舎に住んでいる人にとって役に立つため、言語アプリが効果的であれば、どこでもアイヌ語を学習できる（井筒, 2007）。だが、言語アプリとラジオでは会話が達成しにくいと言う同じ問題がある。

様々なアプリで会話が練習できると言われているが、アプリの実際の効果はまだわかっていない。言語アプリに対する研究が少ないため、ユーザーが多いにもかかわらず、アイヌ語がアプリで学習できるかどうかは明確には分らない。そのため、アプリで言語を学習することはいい解決法ではない。

6.3. AI

AI ばかりが解決法ではないが、初期のアイヌ語 AI が開発された後に、様々な効果が見られる。AI を通して会話ができるので、会話が練習できないアプリには明確なデメリットはない。しかし、AI は間違えることもあるため、Drops や Duolingo などの AI を使用しないアプリに比べてさらに注意する必要がある（奥田, 2022）。

実は、AI の答えのうち 15% は間違えだと言われているため、まだ多くの監督を必要としている。しかし、音声認識や発音学習などではできるため、プログラムを改善し、ラジオ番組やアイヌ語教科書などと共に使用すれば、インターネットで会話できないという問題が深刻ではなくなるはずだ。AI は常に発達しているため、すぐにテキストの理解度は上がるはずだ（奥田, 2022）。そして、現在はまだいい解決法ではないが、他の解決法と AI を同時に使えば、AI が改善された後に十分な解決法になる。

7. 将来の解決法

アイヌ語話者は少ないが、現在は安定したレベルになっているようだ（公益財団法人 アイヌ民族文化財団, 2025）。しかし、また一般的に北海道に住む人々はアイヌ語が分からないため、アイヌ語話者は絶滅するレベルになる可能性が高い。そして、言語学習には多くの時間がかかるので、将来に向けた解決法は最も大事な解決法だ。そのため、現在発展している解決法を全て組み合わせれば大人と子供に向けてのアイヌ語の復興に向けた提案を提唱できる。

7.1. 子供向けの提案

子供は簡単に母語を習得するので、アイヌ語にとって子供は最も大切な資源だ（Ramirez, 2021）。様々な解決法があるが、子供は大人よりも簡単にイマージョンを通して言語を習得できるの

で、現在言語の巢とラジオやテレビなどの日常的なものと一緒にアイヌ語を使用すれば子供がアイヌ語を簡単に学習できる。（野崎, 2016）。

そのため、上記の解決法を使用すればアイヌ語母語話者が増え、言語の巢とラジオやテレビなどでアイヌ語を使用することが簡単になる（Koslova, 2021）。アイヌ語が分かる人々が増えれば、学習がさらに簡単になるため、現在の子供だけでなく将来の子供にもアイヌ語を教えられるようにアイヌ語教育を進めるべきだ（公益財団法人 アイヌ民族文化財団, 2025）。多くの資金や教えるための学習者などが必要だが、現在言語の巢やメディアなどはアイヌ語話者が少なくなるにつれて、さらに多くの資金が必要になるので、すぐに使用する必要がある。

7.2. 大人向けの提案

もちろん、子供向けの解決法を実行する前に大人は子供に教えるため、大人向けの解決法は大事だ。子供に比べて言語習得が遅い大人に対しては、解決法は違う（Ramirez, 2021）。現在、北海道大学によって多くの若者と先生は日常的にアイヌ語を聞く。少し新しい方法だが、そのような解決法に効果があるとしたら、北海道中で実行すれば皆は無料でアイヌ語を毎日学習できるため、会話ができなくても日常的な言葉を理解できるようになる（北海道大学, 2024）。

この解決法だけでは十分ではないが、人々が日常的な言葉が分かれば、会話も上達しやすくなるはずだ（Koslova, 2021）。そして、後に公益財団法人アイヌ民族文化財団のように無料でアイヌ語の先生になるための授業が一般的になれば、誰でもさらに簡単にアイヌ語を教えられるようになる。この解決法には多くの資金が要るが、実行できればアイヌ語を一般的に使用できる言語にすることができるだろう。

7.3. 資金に対する提案

資金の点は様々な倫理的な問題を引き起こす。また、アイヌ人はもう「私たちを観光資源としか見てない...」という意見を持っているため、観光を利用すれば人々はアイヌ人は利益のために搾取されていると考えるだろう（木原, 2024）。だが、何もしなければ、アイヌ語が絶滅してしまう可能性があるため、解決のためには、妥協も必要だ。

日本政府には多くの資金があり、簡単に公益財団法人 アイヌ民族文化財団に資金を提供できる。さらに、連邦政府はすでに文化活動のために資金を割り当てているため、また政府はすでにアイヌ語再活性化運動に資金を提供しているため、この資金をアイヌ語の教育のために使用すれば、長期的には効果があるはずだ（財務省, 2024）。

さらに、政府による文化活動に対する資金でも十分ではなければ、観光や大学からの収益を使用できれば、アイヌ語教育にさらに投資できるようになる。この解決法によって、アイヌ語再活性化ための資金がさらに増えるばかりでなく、政府支出も減少し、法律や与党などが変わってもアイヌ語再活性化運動には常に資金が提供される。このため、複雑であるが国民の同意が得られれば解決できることは明白だ。

連邦政府は公益財団法人 アイヌ民族文化財団に資金を提供し続ける必要がある。北海道政府はさらに推進して観光の収益を使用すれば、連邦政府は資金を増やさなくてもアイヌ語教育運動を提供できる。さらに、大学がアイヌ語の授業を提供すれば、日本人ばかりでなく、アイヌ語に関心がある外国人からも収益を集められはずだ。そこで、この解決法によって北海道における大学が多くの収益を集めれば他の大学でもアイヌ語の授業が提供できるようになり、アイヌ語が学習やすくなるばかりでなく、日本政府の支出も削減できる。この解決法はアイヌ文化を少し商品化することにもなるが、絶滅に比べればいい対策だと言えるだろう。

8. 結論

アイヌ語再活性化運動には良い点も悪い点もあり、現在の運動は十分だとは言えないが、行われている運動を活用すれば効果が見られるはずだ。外国における様々な活性化の方法が多くの研究が

行われているので、外国からの情報と日本の財団と大学の運動と一緒に活用すれば、アイヌ語の再活性化にはまだ希望がある。

しかし、金銭的な問題は大きい。日本連邦政府は十分なアイヌ語に関する法律を制定しなければ、大学と公益財団には十分な資金が得られない。連邦政府は今世紀多くの効果的な法律を制定して財団を設立し始めたので、不可能ではない。人々はアイヌ語に興味があるため（中川、2024）、政府は早くアイヌ語を学習したい人を探したら簡単に見つけるはずだ。

アイヌ語は絶滅すべき無用な言語ではない。アイヌ文化は日本文化なので、守らなければ北海道の精神も死んでしまう。様々な解決法には効果があり、メディアや様々な運動によって多くの人はアイヌ語を学習したいと考えるようになるはずだ。連邦政府と日本国民は少しずつでもアイヌ語を一般的に学習可能な言語にする必要がある。それは言語を守るためばかりでなく、日本文化を守るためでもある。

参考文献

- 井筒勝信. (2007). アイヌ語学習・教育用資料の電算化・集積・公開を可能にする情報ネットワーク構築のための基礎研究. 北海道教育大学.
<https://www.hokkyodai.ac.jp/files/00005800/00005884/06.pdf>
- 奥田統己. (2022). AI によるアイヌ語の自動処理—実現したこと、期待されること、やるべきでないこと—. 北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要.
https://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/wp-content/uploads/2022/04/bulletin_ACRC_vol7_01_p001_008.pdf
- 木原育子. (2024). 「私たちを観光資源としか見てない…」5 年経ったアイヌ施策推進法は「抜け殻のような法律. 東京新聞. <https://www.tokyo-np.co.jp/article/330052>
- 公益財団法人 アイヌ民族文化財団. (2024). アイヌ語ラジオ講座テキスト. アイヌ語ラジオ講座テキスト一覧. https://www.ff-ainu.or.jp/web/potal_site/radio.html
- 公益財団法人 アイヌ民族文化財団. (2025). <https://www.ff-ainu.or.jp/index.html>
- 財務省. (2024). 日本の財政関係資料. 財務省.
https://www.mof.go.jp/policy/budget/fiscal_condition/related_data/202404_00.pdf
- サッカーパンチプロダクションズ. (2025). ゴースト・オブ・ヨウテイ. ソニー・インタラクティブエンタテインメント. <https://www.playstation.com/ja-jp/games/ghost-of-yotei/>
- 新藤透. (2016). 北海道戦国史と松前氏. 洋泉社. ISBN: 978-4800306814
- 関口明. (2015). アイヌ民族の歴史. 山川出版社. ISBN: 978-4634590793
- 瀬川拓郎. (2016). アイヌと縄文: もうひとつの日本の歴史. 株式会社筑摩書房. ISBN: 978-4480068736
- 田端宏., et al. (2010). 北海道の歴史. 山川出版社. ISBN: 978-4634320116
- 帝国議会. (1899). 北海道旧土人保護法公布. 帝国議会.
https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/ass/new_sinpou4.html

- 中川博. (2024). アイヌ語監修者が発見した、アイヌ文化を保存するために必要なこと『ゴールデンカムイ 絵から学ぶアイヌ文化』刊行記念インタビュー. 集英者新書プラス. https://shinsho-plus.shueisha.co.jp/interview/nakagawa_interview/26257
- 日本の内閣.(2019). アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律. 平成 31 年法律第 16 号. <https://laws.e-gov.go.jp/law/431AC0000000016/>
- 日本の内閣. (1997). アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律. 閣法平成 9 年法律第 52 号. <https://laws.e-gov.go.jp/law/409AC0000000052>
- 日本の内閣. (2012). アイヌ政策推進会議. 報告書等：アイヌ政策推進会議. <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/ainusuishin/documents.html>
- 野崎剛毅. (2016). フィンランドにおける言語の巢の現状と課題. 札幌国際大学. https://www.cais.hokudai.ac.jp/wp-content/uploads/2016/04/20160331_finlandsami_005.pdf
- 野村義一. (1992). 世界の先住民の国際年記念演. 国連総会. <https://www.ainu-assn.or.jp/united/speech.html>
- 北海道大学. (2024). 北海道大学構内循環バスのアナウンスにアイヌ語を導入. 北海道大学. <https://150th.hokudai.ac.jp/news/699>
- Broderick, G. (2017). *The Last Native Manx Gaelic Speakers. The Final Phase: 'Full' or 'Terminal' in speech?*. *Studia Celtica Fennica XIV*. ISSN: 1795-097X
- Dahl, J., et al. (2000). Nunavut: Inuit Regain Control of Their Lands and Their Lives. *International Work Group for Indigenous Affairs*, p. 12-18. ISBN: 87-90730-34-8
- Government of Canada. (2025). Funding - Culture, history and sport: Indigenous Languages and Cultures Program. *Government of Canada*. <https://www.canada.ca/en/canadian-heritage/services/funding/aboriginal-peoples.html>

- Isle of Man Government. (2022) . Manx Language Strategy 2022- 2032. *Isle of Man Government*. https://desc.gov.im/media/lcwd5ig4/manx-language-strategy-2022-32_compressed.pdf
- Koslova, M. (2021) . The benefit of immersive language-learning experiences and how to create them. *Cambridge English*.
<https://www.cambridgeenglish.org/blog/the-benefit-of-immersive-language-learning-experiences-and-how-to-create-them/>
- Mosley, C., & Nicholas, A. (2010) . Atlas of the World's Languages in Danger. *UNESCO*, p. 48-50. ISBN: 978-92-3-104096-2
- Ramirez, N. (2021) . 幼児期は「第二言語」を学ぶのに最適な時期であることが分かった. *University of Washington*.
<https://www.newsweekjapan.jp/stories/lifestyle/2021/12/post-97732.php>
- Statistics Canada. (2023) . Census of Population. *Statistics Canada*.
<https://www12.statcan.gc.ca/census-recensement/2021/as-sa/98-200-x/2021012/98-200-x2021012-eng.cfm>
- Statistics Isle of Man. (2021) . 2021 Isle of Man Census Report Part I. *Isle of Man Government*. <https://www.gov.im/media/1375604/2021-01-27-census-report-part-i-final-2.pdf>
- STV ラジオ. (2024) . アイヌ語ラジオ講座. 札幌テレビ放送株式会社.
<https://www.stv.jp/radio/ainugo/index.html>
- University of Victoria. (2025) . University of Victoria Indigenous Language Revitalization Page. *UVic Department of Linguistics*. <https://www.uvic.ca/about-uvic/about-the-university/indigenous-focus/indigenous-language-revitalization/index.php>